

報告 1：李 小燕（たちばな学園）

中国企業と社会的責任—重大事件をめぐって

近年、中国では鉱山事故や毒餃子、毒ミルク、野菜への農薬混入、食品安全などの重大事件が相次いで起こっている。このような事件は社会に悪い影響をもたらしただけでなく、国や企業の信用も大きく損なわれた。そのため、社会の大きな不安定要素になり、社会課題として取り上げられている。これらの懸案を解決するには、企業の社会的責任（**corporate social responsibility: CSR**。以下、**CSR**）が不可欠であると筆者は考えている。

なぜならば、**CSR** はヨーロッパをはじめ、各国・地域が企業の社会に果たす役割の大きさを自覚することによって、社会問題を解決する目的で世界的に提唱されているものだからである。これまで、欧米諸国や日本の企業は実践によって試行錯誤してきて、一定の効果が見られた。同様に、中国でも **CSR** をうまく活用できれば、企業と社会などの衝突を解消でき、この懸案も解決できるのではないかと思うのである。

実際、中国において **CSR** に対する認識もどんどん変わってきている。はじめは政府の無関心と企業の単なる宣伝手段であったが、現在は国において安定的な社会関係と調和の取れた経済秩序が維持できる効果的のルーツとして、企業にとっては重要な経営戦略の 1 つとして重視されるようになってきている。

とはいえ、中国企業は重大な事故・事件を引き起こし続けている。現代社会の中で果たすべき企業の大きな役割から言えば、本来、企業は社会の一員としての責任を負って、社会課題を解決して社会の負担を減らすべきである。しかし、残念ながら中国企業は **CSR** を果たすどころか、さらに社会に次々と課題を作り出しているといえる。

極論すれば、中国企業は無自覚に、自社の利益を追求しようとしている。本稿では、その背景を理解し、独特の国情を考慮し、実例を用いて徹底的に分析する。また、中国に置かれた状況に合わせながら、直面する課題を見つけ出し、その解決策を提言する。